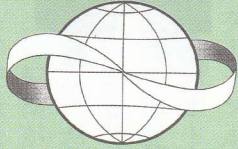


# ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第42号

発行 東多摩再資源化事業協同組合  
 理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志  
 東京都東村山市久米川町1-16-18  
 Tel&Fax 042-395-9788

## 古紙採取り業者に

### 最高裁で有罪判決！

七月十七日および二三日に、最高裁第一小法廷は、世田谷区から清掃・リサイクル条例違反の罪に問われた古紙回収業者の上告を棄却する決定をした。

区が、ごみステーションを利用して実施している資源の行政回収事業から、新聞古紙などを勝手に持ち去るいわゆる「採取り業者」の裁判で、一審では、ごみステーションが「所定の場所」とは認められないとして一部無罪となった。しかし二審では「集積所であることが周知されている」と全員有罪となった。今回の最高裁決定で、

東京高裁の判決が確定した。環境省の調べでは、家庭系古紙の推定回収量が七七〇万トンで、行政回収と集団回収で六八％になるという。残り二五〇万トンが民間回収量となるが、そのかなりの部分が「採取り業者」に持ち去られたものと考えられる。

行政回収そして集団回収は、古紙価格に左右されず、地域自治体と市民そして地元回収業者で作られた安心できる永続的なシステムで、今や全国に定着している。

特に多摩地域では、一八年度の再生資源物の集団回収による回収が九・六万トンとここ数年安定しているのに対し、行政回収の分が三八・八万トンと大きく伸びている。古紙類だけを見ても、集団回収で九・一万トン・行政回収で十五・四万トンと行政回収に対する市民のニーズが年々増している。

欲しいものだけを横取りして、手間のかかるものや安価なもの、回収し難い場所などはそのままにして片付けもしない業者に、肩代わりをさせてよいのかを問いたい。今や再生資源は、順調に流通し民間の回収業者でも採算の取れる回収が可能になっている。チラシを配って努力している業者もある。

しかし、地域で長年にわたって育んできたシステムから無断で横取りしてゆく行為は、明らかに窃盗行為であり絶対に許してはならない。また盗品を買い取る古紙問屋も製紙メーカーも「盗品等関与罪」で糾弾しなければならぬ。商道徳上もあってはならない、子供たちに対する教育上も交通安全上も見逃してはならない。

しかし、世田谷区の訴訟問題でも、条例違反の罪に限定した判決で、窃盗罪や盗品等関与罪までは踏み込んでいない。

全国の自治体が採取り防止の条例設定に乗り出しているが、条例の内容にも大差がある。

再生資源物は、ただごみ処理の副産物ではなく、地域住民が真心込めて育てた生産物であり、地元で働く回収業者や作業員の貴重な職場ともなり、地元施設こそが3R社会の基盤となる。各自治体は条例を完備し市民や事業者の財産を守る対応をして頂きたい。

やがて訪れる食糧・資源・エネルギーなどの枯渇時代に、再生資源類の生産地として、分別・回収・加工の更なる育成は各自治体の重点事業といつて過言でない。

東多摩再資源化事業協同組合は、全員が「日資連の認定制度」に合格し「国の官需適格組合」の資格も得て、地域に密着した「地産地消」の万全な体制を取っている。市民のニーズが高い行政回収や集団回収を妨害し、無断で資源物を持ち去る採取対策として資源物の「戸別回収」で成果を上げている自治体もある。

組合としても、市民の皆さんが出し易く盗難の被害も少なく安心してご協力頂けるシステムを提案し、自らの業態をさらに律して、市民と共に再生資源の生産者責務を果たして行きたい。

T・K



## 直言拝聴

## リターナブルびんの行方

東京容器包装リサイクル協同組合  
副理事長  
株式会社 トベ商事  
代表取締役



戸部 昇

私は回収びんの商いを永年に亘り営んできたことから容器を中心に本稿を進めさせていただきま。これまでリターナブルびんは循環型社会のお手本と言われてきましたが、今日リターナブルびんはどのような状況に置かれているのか述べさせていただきます。

循環型社会形成推進基本法では3Rの考え方が導入されています。3Rは皆さんご承知の通り、リデ

ユース(削減)、リユース(再使用)リサイクル(再利用)ですがこの三種のRを構築し実践することによって循環型社会を形成するということです。

3Rの中で実現されたものにリサイクルがあります。リサイクルは平成九年に容器リサイクル法が施行されて以来、ごみ減量の面からも市町村の分別回収が全国的に実施されたことにより社会的にも周知徹底されたといっても決して過言ではありません。また、リデュースにおいてもスーパーマーケット等のレジ袋削減で、マイバックでお買い物のお客様にインセンティブとしてのポイントを発行するなど循環型社会に向けての取り組みが活発化しています。ではリユースの代表リターナブルびんはどんな動きをしているのでしょうか。

リターナブルびんは残念ながらこの十年間減少の一途をたどるばかりとなっています。リターナブルびんには次のような種類がありました。保証金付のビールびんや飲料水のびん。市場価格で取引され、ボトラー(飲料メーカー等)にとつて経済的メリットが得られる一升びんや食酒調味料のびん等です。ところがビールびんはアル

ミ缶に、飲料水のびんはアルミ缶やスチール缶、PETボトルに変わり、一升びんは紙パックや大型のPETボトルに変わりました。この変化によりリターナブルびんは、十年前と比較すると八〇%近く減少しています。

リターナブルびんの減少を時系列で見ると、昭和四十八年オイルショック後に始まっています。オイルショックの時は省資源省エネルギーが声高に叫ばれていました。わが国では容器の使い捨てが始まりました。物流面から見るとスーパーマーケットが進出しました。一方、家庭では専業主婦が減少し社会での女性の活躍が始まりました。勤め帰りに駅前のスーパーでびん詰品を買い家庭で消費され空きびんとなります。スーパーでは飲料水を回収しないため、びんは飲料メーカーに戻らずごみとして捨てられるようになりました。容器が回収されない、リターナブルびんで出荷する飲料メーカーは採算が悪くなるためワンウェイ容器に切り替え始めました。びんより軽い紙パックや缶に変わり始めました。ガラスびんも軽量化しワンウェイになり、使い捨て社会が到来しました。ガラスびんはリターナブルびんからワンウェイび

んに変わったことで生産トン数は右肩上がりです。しかしこのワンウェイ化によって不燃ごみが増大しごみ非常事態宣言を発した市町村もあります。これら市町村は不燃物の埋立地が不足したため分別収集が行われるようになりまし。

その当時リターナブルびんは酒小売店から回収していましたが、分別収集で集められたびんの内容を見るとワンウェイびん四五%、リターナブルびんが五五%とリターナブルびんが一緒に収集されていました。収集の方法も袋詰めやコンテナと市町村によって異なり、袋収集方式のリターナブルびんは品質も悪くボトラーから敬遠される事態になりました。コンテナ収集されたリターナブルびんがどうか再使用の対象となり今日に至っています。

市町村のびん収集は住民にとつて大変便利なものです。それまでは酒の小売店へびんを返していたものが身近な集積所へ出せるようになったのです。しかし、弊害として酒小売店にびんがあつまりにくくなりました。酒店の回収ルートが徐々に崩れ始めました。ワンウェイびんは色選別して、カレットとして再利用されます。



全国的に市町村の分別収集が行われるようになったことからカレットは過剰になり、有価取引されていたものが無償または処理費を要することになりました。このような状況に対して消費者団体はワンウェー容器反対の運動を行ない、リターナブルびんの復活をボトラーに申入れるなど動きが活発化しました。平成五年、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会は自主的にびん詰め商品をリターナブルびんに切り替えました。一般市場でのボトラーの対応はまちまちでしたが、環境を重視する某焼酎メーカーは従来のワンウェーびんをリターナブルびんに切り替えました。回収用コンテナも開発し積極的に回収を始めました。このメーカーの担当者はワンウェーびんを市町村が税金をかけ回収するのを疑問とし、また環境的にもリターナブルびんのほうが優れていることから復活させたと述べておりました。生協のリユースシステム、大手焼酎メーカーのリターナブルシステムは少なからずとも他ボトラーに波紋をもたらし数社の追従もありました。このことは容器リサイクル法が制定される時点においてリターナブルびんへの転換が何らかの形で規定されるのではな

いかと考えられたからです。

平成九年容器リサイクル法が行われましたが、リターナブルびんは再商品化費用が免除となり、既存のビールびん、一升びん、牛乳びんがリターナブル認定されるにとどまりました。ワンウェーびんに対しては再商品化費用が発生するようにりましたが負担金額も少ないことからリターナブル容器に転換するほどの動きは見られませんでした。むしろ容器リサイクル法が施行されて十年、リターナブルびんは壊滅的状况にあり一般家庭では殆ど見かけなくなりました。

壊滅的状况であるなか平成十六年南九州にて環境省循環型社会形成実証事業において九〇〇ml茶びんの統一リユースシステム事業がスタートしました。この事業はリターナブルシステムが崩れてゆく中で注目され現在は年間二百二十万本出荷されて飲食店等から回収しリユースされるようになりました。先に述べた生活クラブ生協のシステムは六生協が再使用びんネットワークを構築し、今では年間一千四百四十万本のリターナブルびんが出荷されリユースされています。

一般市場では壊滅的状况ですが、

配達を中心に行っているクローズド市場では回収システムを確立しやすくいため順調に推移しています。

南九州の九〇〇ml茶びんはボトラーが積極的に取り組んだことよって成功しています。生協は組合員が環境問題に対し自分たちで出来ることを取り上げボトラーと共に構築したシステムです。環境問題は上流が変わらなければなら変化はありません。容器を作り続けてリサイクルをする。ごみにはしないことは大いに結構なことです。しかしリユースなら、こんな例があります。皆さんのよく知っている一升びん、一番多く使われていた時代では年間十億本と言われていました。この十億本に対して新しく生産される一升びんは二億本程でした。ここに循環型社会の基本があるのです。リサイクルで行った場合毎年十億本の一升びんが必要になります。リユースならば十億本作ればあとは目減り分の補充を行えばよいのです。

資源エネルギーの使用は五分の一で済みます。したがってCO<sub>2</sub>の削減もおのずと行われていきます。全国地球温暖化防止活動センター・リターナブル化試算プロジェクトによると、日本中の飲料容器すべてがリターナブルびんになっ

た場合CO<sub>2</sub>を七十七・六万トン削減できると試算しています。サマータイム導入では四十四・三万トン、エコドライブ七十万トンと試算されています。これらを比較しても生活の中にリターナブルびんを導入するだけで大変大きな効果が得られます。

環境によいと言われていながら年々減少していくリターナブルびん。ボトラーの充填ラインからも洗びん機が撤去されリユースを復活するのは大変難しい状況にあります。しかし世界は環境優先の時代に切り変わっています。大量生産時代に生み出されたリサイクルは今新たな変化が求められ始めています。環境戦略と言うトレンドが目前に来ているようです。あ

る大手の居酒屋チェーン店ではリターナブル容器への切り替えを本格的に計画し始めています。また、ドラッグストアにおいても濃縮ジュースの空きびんを回収し再充填するシステムを実験段階まで到達しています。ビジネスで環境に貢献し会社のブランドイメージをアップするということです。販売事業者のこの動きは新たな芽です。大きく育つように皆様にご注目を頂きご支援をお願い致します次第です。



# リサイクル意識の向上をPR!

環境フェア清瀬・東大和環境市民の集いに初参加

## ●環境フェア清瀬

五月二十五日(日)、清瀬市中央児童館「ころぼっくる」で第一回環境フェア清瀬が開催され、当組合も参加した。

清瀬市で環境に関するフェアが行われるのは、初めてということだが、市では以前からの懸案だった事もあり、環境に関する取り組みをしている団体に呼びかけ、たびたび委員会を開き準備をしていた。

今まで毎年十月に行われている市民祭には、環境課の御協力を頂いて参加していたが、組合のトイレトペーパー「ブーメラン」の



挨拶する  
星野清瀬市長

今回は、古紙分別や紙の再生ルートのパネル展示、クイズ等の他、市民の皆様が我々業界の事をどれだけ知っているかということ、集団回収の取り組みや、抜き取り行為、製紙メーカーの古紙配合偽装問題等に対するアンケートを行い、参加者にはトイレトペーパーを配布することとなった。

当日は朝から雨模様、また会場への交通の便があまり良くないということ、来客の出足が心配され



ブースでパネルを見る市民

販売と「こんなものいらぬアンケート調査」等といった限定したものと なっていた。

だが、時間と共に天気も回復し、昼ごろから結構な人出となった。用意したトイレトペーパーも午後二時頃には無くなり、盛況のうちには終了となった。

これからも当組合は、市民の皆様に興味を持っていただけるような企画を検討し、各市の環境フェアに積極的に参加していきたいと考えている。

## ●東大和環境市民の集い

六月一日(日)前日の雨とは打って変わった晴天の下、多数の市民が参加して行われた。二十三回目となる歴史のある集いに初めて参加させていただくことに、組合員参加者一同感謝の気持ちを込めて、古紙分別クイズやリサイクルアンケートなどを行い、リサイクルの重要性を訴えた。トイレトペーパー「ブーメラン」の配布は「市民の集い」の本部が行った。



挨拶する  
尾又東大和市長



熱心に説明を聞く市民

## 〔環境フェアで実施したアンケートの内容〕

- ① 集団資源回収を御存知ですか?  
(行っている・知っている・知らない)
- ② 製紙メーカーによる再生紙の偽装問題についてどう思われますか?  
(絶対に許せない・仕方ない・よく分からない)
- ③ 資源物の抜き取り(横取り)についてどう思われますか?  
(絶対に許せない・仕方ない・よく分からない)
- ④ あなたが実践している環境に優しい取り組みがあれば教えてください。
- ⑤ 最後に、感想や御意見を御聞かせ下さい。



リサイクルフェア・アンケート集計 (08年)

アンケート参加総数：清瀬243票、東大和220票

	集団回収			投票総数	再生紙偽装			投票総数	抜き取り			投票総数
	行っている	知っている	知らない		許せない	仕方ない	分からない		許せない	仕方ない	分からない	
清瀬	104	98	40	242	126	81	38	245	160	47	32	240
	43%	40%	17%		51%	33%	16%		67%	20%	13%	
東大和												
	行っている	知っている	知らない		許せない	仕方ない	分からない		許せない	仕方ない	分からない	
64	89	59	212	131	31	53	215	149	36	31	217	
30%	42%	28%		61%	14%	25%		69%	17%	14%		
環境への取組												
合計	集団回収			454	再生紙偽装			460	抜き取り			457
	行っている	知っている	知らない		許せない	仕方ない	分からない		許せない	仕方ない	分からない	
168	187	99	454	257	112	91	460	309	83	63	457	
37%	41%	22%		56%	24%	20%		68%	18%	14%		

【実際に取組で多かったもの】

- ・ごみの分別とリサイクルへの協力 (105票)
- ・レジ袋をもらわず、マイバッグ、エコバッグを持つ (39票)
- ・エコ商品の適温調節や家電製品の未使用時に電源を切る、エコ電球の使用等の節電 (29票)

【その他実際に取組んでいる取組】

- ・節水 (水道の出しっぱなし防止、風呂の水の再利用、食器等の汚れは拭取ってから洗う等)
- ・紙の再利用 (チラシの裏を利用等)
- ・生ごみの堆肥化
- ・使用済油の適正な処理 (ポロ布や紙等で拭取る等)
- ・集団回収への参加
- ・マイはしやマイボトルを使用する
- ・なるべく自動車を使わず歩くか自転車を利用など。

その他

- 【同一意見】
- ・子供にも分かり易くパネル展示や説明がなされ、大変勉強になったので今後ともこのような環境フェアを続けてほしい。(23票)
  - ・リサイクルは一人一人の心掛けが大事なので、皆で協力して行うべきだ。(21票)
  - ・日常からエコに関心を持って生活している。(5票)
- 【その他の意見】
- ・リサイクルの教育は小さいうちから学校で行うべきだ
  - ・環境に優しいもの(リサイクル品等)を安く購入したい
  - ・CO2や温暖化などの環境問題について世界や国でもっと考えてほしいなど。



# 地球環境を守るために

ISO14001

エコアクション21の活動を体験して

## ISO14001

### ● ㈱久米川紙業

ISO14001を取得して四年目になる。内部監査が年二回、全体ミーティングが三カ月に一回、部署と担当者を決めて行い、チームマイナス6%にも参加し、ゴミ箱も分別して入れるようになっていく。

車輻も清掃担当者を決め、室内の温度は二十八度設定、オフィス用紙の削減、無駄なアイドリングをなくす、工場内の省電力、廃棄物のリサイクル化など、他にもいろいろ考えられるエコに繋がることを努力して行っている。

すべてが順調にいけば会社もスッキリしてきれいになるのだが、沢山の人が出入りする為に、ゴミの分別がうまくいかなかったり、車輻の貸し出しも行っている為清掃が行き届かなかつたりしている。外でいっぱい汗をかくて事務所に入ると、冷房温度をどうしても

二〜三度下げたしまう。

なかなか思うようにいかない面があるが、これからも全員で努力して、目標をクリアーしていきたい。

### ● J P 資源株

二〇〇七年一月にISO14001を取得して、約一年半が経過し、運用・管理に苦労してしま

環境活動面では事業所内への出入りする車輻のアイドリング・ストップの協力、電力使用量の削減、自社車輻の使用燃料の削減、廃棄物のリサイクル化等を工夫して取り組んでいます。思うような効果をあげるのには難しいのが現状です。

又、管理の場面では記録、文書などは日常の業務の合間に行わなければならぬので、環境管理者は大変忙しいです。

まだ十分な運用管理をしているとは言えませんが、環境啓発活動、環境教育を充実させて従業員、一

丸となり地球環境保全の為、これからも努力していきます。

## エコアクション21

### ● 日興紙業商事株

当社がエコアクション21を認証取得して、早くも八ヶ月が過ぎた。

業務活動を通じて環境目標を定め、社員一人一人が自覚を持ち取り組んでいる。

#### ① エコドライブの推進・強化

エコドライブの十法則に従い、急発進・急ブレーキの禁止やアイドリングストップを徹底して、CO2の削減と燃料の節約を計っている。

#### ② 節電

機械類のスイッチをまめに切る、事務所のエアコンの設定温度を二八℃に設定する等の節電対策を行っている。

#### ③ 節水

クーリングタワーのパルプの開閉の徹底と水道の節水コマを取り付けている。

当社は、以上のような環境保全活動を継続的に実施しています。

### ● ㈱三栄サービス

弊社は、昨年十二月二〇日に現

地審査を終え、今年の四月七日に認証登録をさせて頂きました。

初めは、『エコアクション21って何ですか?』『ISO14001の国内版だよ』『ISOって何なの?』『何なんですか?』というレベルからのスタートで、社内へ浸透させるのには苦労しました。

回収に携わる社員が一番分かりやすい『燃費』の計測から始め、地球に優しい仕事(資源回収)を出しているんだから、その際に出る排気ガスや二酸化炭素を出来るだけ出さないような運転に心掛けるようにしました。

だが、エコアクション21の中では環境負荷を様々な側面で考える必要があり、交通事故や、火災などの予防措置や事後処理のマニュアルと報告書に至るまで、現地審査前は書類の整備に追われることになりました。

昨年7月の運用開始以来、ビニール紐や、資源に混入したごみの分別の徹底や、省エネに努めつつ、三回にわたって社員研修会を開催し、今では社員も『安全とエコ』を両輪で考えながら日々の業務に励んでもらっています。

当社独自の取り組みとしては、『環境標語』『環境川柳』のコンテストを開催し、社員自ら『エコ』



への取り組みを提案してもらえようとしています。

近年の燃料高騰もあり、昨年来のこの取り組みが現実的に役に立つようになってまいりました。

いち早く、CO2排出権を購入し、カーボンオフセットを行っている事業所も出てまいりました。

私は、イギリスの排出権を買って免罪符にするよりは、まさに環境負荷をかけている地元の森林保護などに役立てることが出来るようなシステムの構築にも取り組むべきだと思っています。

また、何より、社員全員で苦勞して取得したエコアクション21をCSR(企業の社会的責任)として今後も継続的改善を続け、本業を通じた社会貢献を行っていきけるよう努力していきたいと思えます

●小畑商店

エコアクション21の認証を取得して二ヶ月、認証取得以前の昨年七月より活動を始めて一年が過ぎた。

主な活動は以下の通りである。

①CO2削減活動

エアコン使用の抑制や蛍光灯のこまめな消灯管理等の節電対策を行っている。

本年一月より、事業所の改築に

伴ってオール電化にする等、規模・条件が以前の建物と異なっており、電気使用量が思うように減らない場合があるが、ガスを使用しなくなった分、CO2の削減には幾分貢献していると思う。

車両使用時のアイドリングストップの励行、走行距離の短縮化といったガソリン燃費の削減対策等を実施している。

②廃棄物削減活動  
事業所から出る一般廃棄物や資源回収・選別時にでた産業廃棄物のデータを収集している。

③環境教育活動  
社員向けの環境・リサイクル講習会の実施、ECO検定試験の受験、組合の関連団体主催の環境シンポジウムや、組合主催の各種リサイクル工場の視察等へ積極的に参加している。

④外部コミュニケーション活動  
地元各市の環境リサイクルフェアや環境問題勉強会に積極的に参加し、市民の皆様が環境問題やリサイクル等について指導やPRを行っている。

当社では、今後もこのようなエコアクション21の精神に沿った活動を継続的に行い、地球環境の保全に貢献していきたいと考えている。

●組合

エコアクション21の認証を取得して半年になる。認証の取得は本年二月の事であったが、認証取得以前の昨年七月から実際に活動を始めて、約一年が経過した。

組合での主な活動は次の通りである。

①CO2削減活動

エアコン使用の抑制、蛍光灯のこまめな消灯管理等の節電対策や、車両使用時のアイドリングストップの励行、走行距離の短縮化といったガソリン燃費の削減対策等を実施している。

しかし、季節による天候の変化や、仕事の能率の向上、車両の使用頻度等の要因によって、必ずしも節電対策やガソリン燃費の削減が思うようにいかない場合があった。

②廃棄物削減活動

再生紙の積極使用、紙の両面使用の励行、廃棄物の分別排出の励行(可燃ごみ、不燃ごみ、ペットボトル、プラスチックの四種類に分別)等を実施している。

③環境教育活動

組合員・従業員向けのリサイクル講習会の実施、ECO検定試験の受験、関連団体主催の環境シン

ポジウムへの積極参加、各種リサイクル工場の視察等を実施している。

④外部コミュニケーション活動  
地元各市の環境リサイクルフェアに積極的に参加し、市民の皆様に環境問題やリサイクル等について指導やPRを行っている。

組合では、今後もこれらの活動を継続して行い、「地域に根ざしたりリサイクルパートナー」の役割となるような地球環境保全活動に尽力していきたいと考えている。

**トイレトペーパー**  
**「フーメラン」**  
**(65m巻き・100個入り)**  
1ケース3,000円(消費税・配達料込み)です。  
※注文は1ケース単位です。  
※尚、配達地域は以下の地域に限定致します。  
(小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・東大和市)  
ご注文は当組合までお願いします。  
TEL&FAX : 042-395-9788



## 古布リサイクルの

## 未来に期待

古布再生問屋・(株)大綿を見学して

(七月二十四日)

愛知県にある月間千五百トン取り扱う国内最大手の一つである「(株)大綿」を、業界紙「古紙ジャーナル」の紹介で見学させていただいた。

(会社概要) 昭和六十年に設立、従業員百名、再生繊維リサイクル業、貿易業を行う。本社工場八百坪と、八千坪の輸出設備を備えた工場がある。海外にもマレーシアと韓国に工場がある。

七月二十四日、岐阜羽島で待ち合わせ。社長自ら車で迎えに来られた。まだ四十歳と若い方であった。田畑が広がる田舎道を二十分



古布の選別作業の様子

くらい走った所に、大きな二階建ての工場があった。工場内で行われる作業は、関東でいくつか見学した古布問屋と変わらない。持ち込まれた古布を何十種類かに分けて、古着、反毛材、ウエス材にな

っていく。やっていることは同じだが、取扱量の多さと選別、販売システムが海外工場と国内工場をうまくリンクさせて経営している事に感心した。本社工場で説明を聞いたあと、八千坪の輸出システムを備えた八海工場に向かった。

八海工場には作業棟が四棟あり、一棟が二百坪から三百坪ぐらいの広さであった。ウエス製造棟、選別作業棟、輸出入作業棟二棟になっている。説明によると、持ち込まれた(引き取りも有)古布を二十から三十種類に粗選別し、百キログラムから二百キログラムにプレスする。海外二工場に送り、再選別をして、現地販売と日本国内向けに分ける。国内に再輸入される古布は、ウエス材が多いらしい。社長の若さから考えて、海外に工場を作るのは大変な努力と勇気が



品目毎に梱包された古布プレス

必要だったでしょう、とお聞きしたところ、「十年ぐらい前に古布が売れなくて、在庫が山のようになつた事で、経営方針を転換しました」との事。国内では人材も集まりにくいのも理由の一つらしい。古紙と同じで輸出する事で活路を見出せた様だ。今は古布がたりないので、関東の方からも購入しているし、これからも増やしていきたいとの事であった。

私どもにとって古布は扱ってはいないが、利益とは無縁の存在であり、正直に言えば出来るだけ扱いたくない品物であり、将来無くしていきたいと思っていたが、「(株)大綿」の様な元気な古布問屋を見ると、古布のリサイクルもこれからどんどん良い方向に変わっていく様な気がした。目からウロコが取れた気分になった所で、見学させて頂いたことを感謝申し上げ、「(株)大綿」を後にした。

今回の見学目的は、古布リサイ

クルの現状確認であった。世界的に資源は足りない状況にあるのに、私どもの取扱品目の中で唯一取り残されているのが古布である。どこの古布リサイクル業者に話を聞いても、明るい未来はなかった。

我々も将来を考えて、RPFの原料になるのではと思ひ、今年の春に茨城県の「(株)あおぞら」を見学した。

しかし、价格的にRPFが安価なため、現状では古布の取引は難しいことを知った。その様な時に、業界紙の速報で古布の輸出記事が掲載され、海外と取引が活発に行われている事を知り見学を申し込んだ。

勉強になった事は、古布の国際価格は高めであるが、古布問屋の規模や販路によって、かなり違ってしまふ事である。小さな商店から、大問屋まで複雑にからみ合っている為、日本だけ国際価格に届かない様である。

しかし、「(株)大綿」の様な会社が増えてくれば、古布の未来も明るくなるような気がする。

古布は発生量の十%しかリサイクルされていない。残りはほとんど焼却である。まだまだ集める事は出来るのである。(吉浦高志)



# 一年間を振り返って

小平市リサイクルセンター  
現場責任者 佐藤 利夫

昨年七月より小平市リサイクルセンターにお世話になり九月から現場責任者として採用されました。

これまで小平センターを長年にわたり築き上げてこられました花島さんの後任の現場責任者というところで自分にこのような大役がつとまるだろうか不安でしたが組合理事、事務局、小平センターの皆さんに支えられながら何とか一年が経ちました。本当に感謝しております。これからも至らない点も多いかと思いますが、前現場責任者の功績を無にしないように精一杯やりぬこうとおもっています。私は、約四〇年間自動車整備一筋



袋回収されてきた資源物



選別作業によって出てきたリサイクル不能品(ごみ)

に携わり、平成十八年十二月にデューラーを早期退職し、とりあえず人生の一区切りとして一休みしながら第二の人生を模索していたところ、兼ねてからのお客様だった理事長よりお声が掛かり、昨年七月より右も左もわからず資源リサイクル業界に飛び込みました。資源リサイクルの仕事内容は、(株)三栄サービスと約二六年間の仕事のお付き合いの中で概略は見てきました。以前に各資源相場の厳しい時期など、苦労話も聞きました。資源リサイクルへの取り組み意欲には敬服していました。そんな中、組合を立ち上げ益々発展し、

また全国の再生資源事業を代表するまでに飛躍したことに驚きました。

私も自動車整備を通じて排気ガス規制やフロンガス、自動車リサイクル法など環境整備に何かと係わって来ましたが、また別の角度から地球環境に欠かせない資源リサイクルの仕事が出来ることに誇りを持ちながら、少しでも組合の役に立てばと思っています。

組合の小平センターは小平市の委託事業ということで処理量、人員も多く最初半年ぐらいは、とにかく全体の仕事の流れ、各人の役割、出荷予定、勤務管理などを覚えることで無我夢中で、あつという間の一年でした。

まだまだ覚えることがたくさんありますが、センターの皆さんの意見を聞きながら安全に働きやすく清潔感のある職場にしたいと思っています。

一年間勤めて感じることはセンターに搬入されるペット・プラ・ビン・カンが資源物として袋回収されてくる訳ですが「資源の出し方」のルールを守られていないものが以外にも多く、すすいで出すはずのペットボトルには、キャップを取るところか飲み残しやたばこの吸殻が入っているもの、ビン、カ

ンには中身の残っているもの、プラスチック資源においては、残飯、生ごみ、おむつの入っている物までもあります。

又、ペットボトルやプラスチック資源には、ビン・カン・電池・カミソリなどが混入しており、特にビンの混入は選別ラインでの割れ等で危険を伴います。カン、プラスチック資源にはペットボトル、ペットボトルにはプラスチック資源の混入がかなり多く見られます。

我々も総力を上げて分別作業に取組んでいるが、手選別で処理能力にも限界があり、品質評価の低下にもつながります。

市が定めたルールに従って、市民の皆様の更なる御協力があれば、一層高品質な資源の確保が可能になるのではと思っています。



現場責任者・佐藤利夫さん



# 資源物の抜き取り行為に有効な対策を！

## ●東リ協会・世田谷研修会

去る六月二十七日(金)、世田谷区民会館において、社団法人東京都リサイクル事業協会主催の「資源持ち去り問題の現状」をテーマとした二十三区地域研修会に参加した。

最初に、世田谷区役所から「世田谷区における資源持ち去り問題への取り組み」と題して講演があり、担当係長の藤井氏から今までに行ってきた取り組みとその現状についての説明が行われた。

平成十四年からのパトロールの実施、十五年に古紙の八時前の回収等、対応策をとったが、その時の状況を判断し、条例改正を行い、持ち去り業者に対し、最初は現場での指導、次に行政処分と段階を踏みながら、最終的に告発に至ったそうだ。

講演が終了し、質疑応答・情報や意見交換が行われた。

参加した東京各地域の組合員で会場が満員になっており、時間が足りなくなり、抜き取り問題への関心の深さを示していたが、有効な対応策は出なかったように思う。また今年七月には、最高裁で告

訴されていた十二名が全員有罪と決まり、今後、判決が反映され、対応策や措置がとられていくことを期待したい。

## ●古紙窃盗事件

当組合内で実際に起った話だが、古紙回収業者より古紙の持ち去りについて古紙問屋組合でどうにか出来ないか、との相談がありました。

その古紙回収業者さんは、回収拠点の各家庭に自分で作成したチラシを配り、午前八時から古紙回収を始める方法で何年も続けている。

今まではその拠点から、新聞古紙約二トン前後を回収していたが、今回は半減していて、一トン前後の古紙を持ち去られてしまった。住民の目撃した車は足立ナンバーで、いつもの業者が来る前に各玄関から持ち去ったという。

回収業者さんは、今はティッシュペーパー等と交換しているが、持ち去られたと思われる御家庭に古紙窃盗事件にあったとしてお詫びのチラシを配ったそうだ。

長年培った地元民間回収の信頼関係を一日にして崩壊させる事件

である。この事件は、完全な窃盗事件である。各家庭が法的手段に訴えるしかないと思われる。

古紙持ち去り業者の横行には、①古紙にのせたチラシに名前を見えるように書いてもらう。

②持ち去り業者を見つけたら警察に通報して窃盗事件として捕まえてもらう。

③持ち去ったことが確認された業者から古紙問屋は絶対に買わない等の対策を強化しなければならぬ。

## PETボトル検査

### はAランク

小平市リサイクルセンターから出荷されたペットボトルの品質検査が行われた。栃木県鹿沼市のジャパネット(株)宇都宮工場にて市役所から3名、組合から3名が立ち会った。

番線で硬く締められた1ペールが検査対象である。1ペールの重量242kg、6684本の塊である。検査項目は19項目あり、各項目ごとに数値が設定されていてその数値ごとにA、B、Dとランク付

けされる。(Cランクは無い)例えば、キャップ付PETボトルが検査重量比1%以下なら20点でAランク、20%以下なら10点でBランク、20%超は1点でDランクといった具合である。しかも「外観汚れ程度」と「キャップ付きボトル」のいずれかの判定がDの場合は合計点数の如何にかかわらず総合判定はDとする、と



検査仕訳作業

いった厳しい検査である。総合Dランクは改善命令や返品となる。因みに今回の検査ではキャップ付きボトルは5本で重量比0.09%で20点Aランクであった。Dランクと判定された項目が一つあり、それは、縦潰れやカットされたPETボトルが2.88%で基準の2%を超えていたためである。これは防ぎようがない。次々とコンベヤで投入されるボトルを





解体されたペール

プレス機で圧縮し、鉄棒の中を押し出すので縦につぶれたり、引きちぎられたりするからである。ペールを解いて3人の検査員が手際よく仕分け作業をすること2時間。会議室で質疑応答などを行ない判定結果を待つ。総合判定は、137点でAランクとなった。キャップをはずし、中をすすいで出すなど引き続き市民の皆様のご協力をおねがいいたします。

## 集団回収を楽ししく

### 進める会の委員として

#### 〈集団回収団体連絡会議とアクリルたわし作り体験〉

今年度より、青年部から藤野部長、紺野副部長と私研修担当幹事の水野が東村山市の『集団回収を楽しく進める会』の委員となりました。

同会は、東村山市環境部と連携して、集団資源回収の推進や、環境に優しいイベントの開催、リサイクルに関する施設見学会の実施などを行っている団体です。

五月二十四日に東村山市市民センターにて「集団回収団体連絡会議」が開催され、同会の委員として、紺野理事長と共に参加させて頂きました。

この会議では、五〇団体近く集まった集団回収団体の役員の皆様に対し、集団資源回収の昨年度の実績などを報告し、また、質疑応答を行いました。

質疑応答では、団体への助成金を確保して頂きたいとの要望や、古紙価格の現状、それに、集団回収とは関係ありませんが、容器包装プラスチックの回収に関する質問が上がっていました。

六月八日には、美住リサイクルショップ夢ハウスのイベントに出展するという事で、仕事の合間に見学方々参加させて頂きました。



集団回収団体連絡会議の様子

何かお手伝いをしようとしたところ、「アクリルたわし」作りを体験してみたらと勧められ、慣れない手つきで編み棒を握ね繰り返しながらたわし作りにチャレンジしました。

変ったチャレンジャーの奮闘振りに、声を掛けて下さったり、自分もやってみようという市民の方



このたわしが目に入らぬか

が増え、サクラとしては少しお役に立てたかなと思いますが、出来上がったたわしは、たわしとは似ても似つかない代物でした。

七月二五日には、集団回収を楽しく進める会の役員会議が開催されましたが、紺野副部長に行って頂きました。

今後のエコクッキングや施設見学会の打ち合わせの他、紙のリサイクルのパネルを作る話が出ていたようです。

一二月の施設見学会では、前々から興味があった埼玉の『彩の国循環工場』に行くとのことでしたので、そちらも楽しみにしています。

この度、同会の委員として初めて参加させていただきました。

集団回収団体連絡会議では、参加して頂いた皆さんの集団回収に対する意識の高さを感じる事ができ、また、アクリルたわしなど、環境に優しい取り組みにも共鳴しました。

各団体の皆様の御協力により、集団回収は円滑に行われています。今後もこの貴重な意見交換が出来る会に積極的に参加し、文字通り、集団回収を楽しく進められるよう努力していきたいと思っております。

(青年部 水野)



### 官公需確保対策地方協議会が開催される

#### 去る八月一日(金)午後二時より、東京都庁・都民ホールで、経済産業省・関東経済産業局主催の平成二〇年度官公需確保対策地方協議会が開催された。

はじめに、国側が、平成二〇年六月十七日に閣議決定された「平成二〇年度中小企業者に関する国等の契約の方針」に沿って、①中小企業者の受注機会の増大のための主な措置、②国等の中小企業者向け契約目標について説明した。

続いて、東京都が、中小企業者のための官公需確保対策等について説明した。

### 廃棄物研究財団でヒアリング

#### 「日本の3R制度・技術・経験の変遷に関する研究」グループ

本研究グループ(代表・八木美雄財団専務理事)は環境省の補助金事業で昭和三〇年以降の我が国の3R事業の変遷を調査し、アジアの循環型社会構築に向けて発信する準備作業に役立てるのが主な目的と言った。

八月二一日、紺野理事長が回収業界の変遷を説明し、その後ヒアリングを受けた。

グループの先生方は、関係各界の学識経験者や団体代表で3時間に渡って活発な意見交換をした。

再生資源の回収業界は、その役割の重要さに比して一般社会に対しての認知度が低く、正しく理解して頂く機会も少なかった。

今回のヒアリングは、資源回収業界が不況の度に襲われた度重なる危機と抵抗の決起など厳しい歴史とその背景に何があったのかをご理解頂く好機となった。

意義ある時間を頂いたことに感謝したい。

### 行事・行動

#### 【六月】

- 一日：東大和市環境市民の集い
- 六日：リサイクル議員懇談会  
：鉄源協会総会
- 九日：古紙回収推進特別委員会
- 一日：定例理事会
- 四日：古紙問題市民ネット総会
- 六日：小平RC安全会議
- 七日：小平市廃棄物減量審議会  
：(社)東リ協会総会
- 八日：全国中小企業中央会総会
- 九日：東京中央会・組織委員会  
：古紙C理事會業務委員会
- 二〇日：総務委員会
- 二三日：(財)クリーンJC総会

- 二七日：東リ協会・世田谷研修会  
：東京中央会・役員会
- 三〇日：青年部会議

#### 【七月】

- 三日：東村山廃棄物減量審議会
- 九日：東大和廃棄物減量審議会
- 一〇日：3R推進協議会
- 一日：東大和環境市民の集い  
：実行委員会  
：定例理事会
- 四日：古紙回収推進特別委員会  
：小平RC安全会議
- 五日：(社)東リ協会理事会  
：青年部会議
- 八日：財務委員会
- 九日：関資連・日資連理事会
- 二一日：官公需検査委員会
- 二三日：古紙C理事會業務委員会
- 二四日：エコアクション21研修会
- 二五日：東村山集団回収を楽しく進める会懇談会
- 二八日：広報委員会
- 三一日：家族リクリエーション

#### 【八月】

- 一日：官公需確保対策協議会
- 八日：東京とことん討論会
- 一日：定例理事会
- 四日：青年部会議
- 八日：東大和廃棄物減量審議会
- 九日：小平RC安全会議
- 二〇日：広報委員会
- 二一日：廃棄物研究財団で講演

### 編集後記

直言拝聴に御寄稿下さいました戸部様、リターナブルビンの状況を詳しく教えて頂き大変ありがとうございました。3Rを実践していく道に、便利さやお金の問題が大きな川になって、行く手を阻むことが多いですね。

みんなで努力して環境の橋を造り、循環型社会構築に協力していきましょう。今年も各市のリサイクルフェアに組合員は手弁当で参加して、リサイクルの重要性や分別の大切さを市民にアピールし、集団回収、行政回収への協力をお願いしていきます。

リサイクルフェアアンケートの結果でも解りますが、多くの市民が環境問題を意識して、リサイクルに協力してくれているのに、回収システムや「市民の心」を壊す「抜き取り業者」が横行するのは許すことができません。努力してその様な被害のないシステムを作っていきたいと思えます。

(吉浦高志)